

物化酸ウオイ

高濃度出現率が減少

昭和48年度のイオウ酸化物測定結果が先ごろまとまりましたので、お知らせいたします。

測定は富士保健所、吉原第3中学校、勤労青少年会館、元吉原中学校など9カ所で行なっています。また測定が同じ条件でできるように、昨年、市の測定局は観測小屋の建設を行ないました。

富士市のイオウ酸化物濃度は、毎年すこしずつ減少していましたが、48年度の富士保健所、勤労青少年会館、鷹岡公民館、大淵中学校では、年間平均値が前年を少し上回っています。しかし、これまで常に高濃度を記録していた今泉小学校、伝法公民館については減少しています。

そこで、新環境基準と市内の測定結果を比較してみると、1時間値0.1 PPM以下の達成率は、全測点97ヶ所以上となっています。これを時間数になおすと年間を通じ0.1 PPMを超えたのは約100時間となり、特に大淵中学校は99.8ヶ所(0.1 PPM以上の時間数13時間)、富士保健所は99.4ヶ所(49時間)とほぼ環境基準を満足しています。

また、0.2 PPM以上(0.2 PPM以上が3時間継続すると、緊急時注意報を発令)の高濃度は、勤労青少年会館、吉原第3中学校の2測点で記録しましたが、いずれも注意報の発令までにはなりませんでした。ほかの7測点においては、1度も記録されず高濃度出現の可能性は非常に少なくなりましたといえます。

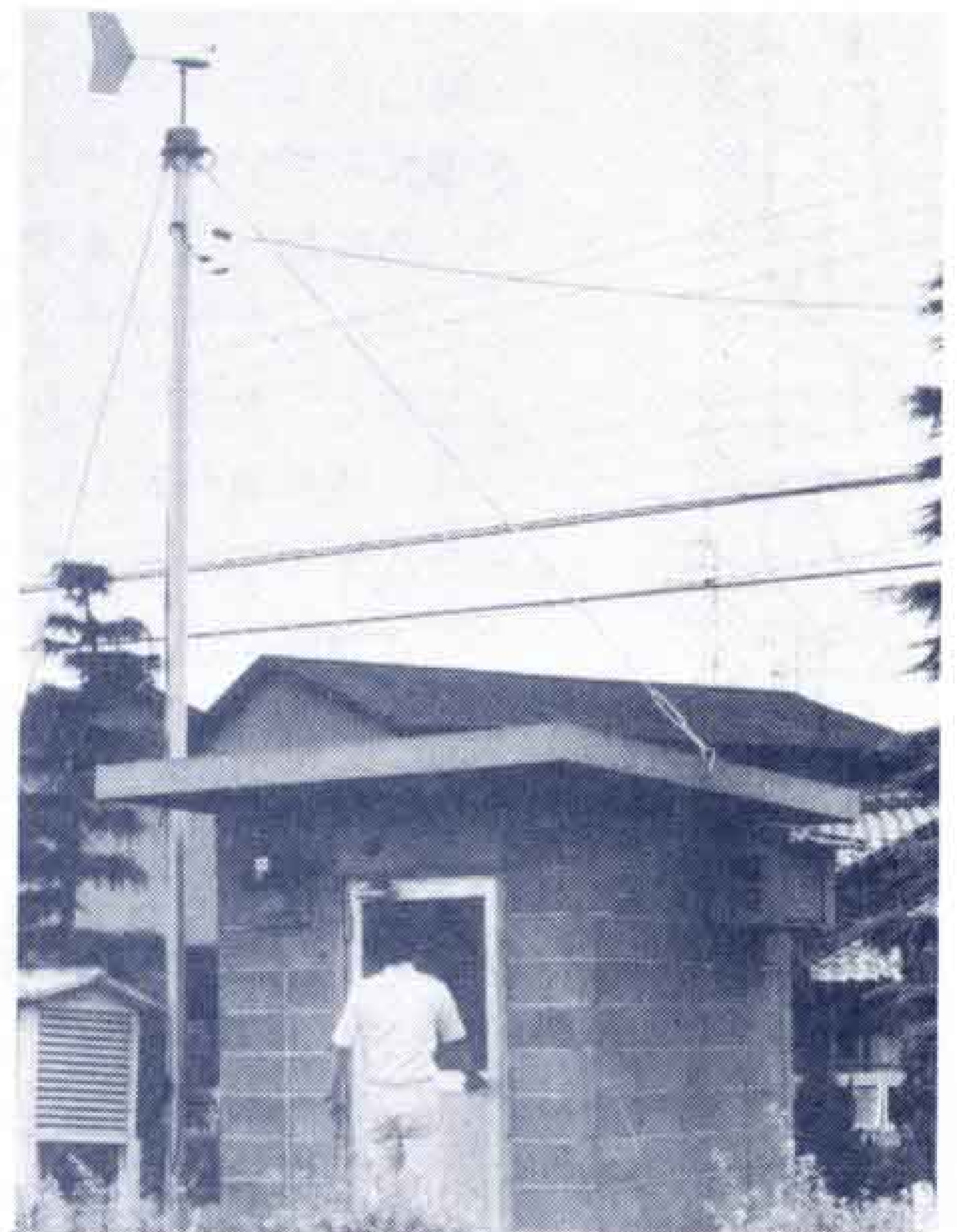
これは、市が昨年10月に使用燃料中のイオウ分を1.5ヶ所以下のものとするように指導したことや、発生源の自粛による結果と推察されます。

しかし、1日平均値0.04 PPM以下の達成率は依然と低く、市内平均で約60ヶ所にとどまっています。特に今泉小学校23.6ヶ所、伝法公民館は41ヶ所と非常に低い結果が出ています。これは、富士市の発生源工場の操業状態が24時間連続稼働しているためで工場が集中している伝法、今泉地区にその結果が現われたものと思われる。

新環境基準達成の最大目標である1日の平均値0.04 PPMにつ

いては、昭和51年度を目標にしており、当面の課題となっているのは、昭和50年度、年平均0.03 PPMの達成です。すなわち「503計画」は、年次別に新環境基準を達成していくものです。

新環境基準はイオウ酸化物の1時間値の1日平均値が0.04 PPM以下、かつ1時間値が0.1 PPM以下となっています。



【同じ条件で測定ができるように観測小屋を建てる】

昭和48年度イオウ酸化物測定結果

(昭和48年4月1日～昭和49年3月31日)

測定場所	測定			20時間以上測定日数	0.1 PPM以下		0.04 PPM以下		年間平均値 (PPM)
	日数	時間数	稼働率(%)		出現時間	達成率(%)	出現日数	達成率(%)	
富士保健所	347	7766	88.7	307	7717	99.4	220	71.7	0.034
吉原第3中学校	353	7976	91.1	318	7829	98.2	188	59.1	0.035
勤労青少年会館	351	7967	90.9	317	7807	98.0	168	53.0	0.040
元吉原中学校	357	7815	89.2	307	7634	97.7	181	59.0	0.038
富士中学校	332	7497	85.6	293	7412	98.9	215	73.4	0.031
鷹岡公民館	352	7968	91.0	313	7913	99.3	207	66.1	0.039
大淵中学校	329	7400	84.5	290	7387	99.8	257	88.6	0.025
今泉小学校	354	8063	92.0	322	7909	98.1	76	23.6	0.047
伝法公民館	352	7843	89.5	310	7713	98.3	127	41.0	0.043